

[ピラミッドからの話題提供]

ヘルスチェックに係る JA グループ若手獣医師の育成について

大角 貴 幸

(全農家畜衛生研究所 研究開発室)

All about SWINE 63, 22-23

(1) ヘルスチェック項目について

CM農場認定対象項目には防疫設備、防疫管理、生産成績調査とあわせヘルスチェックが設定されています。(表1)

このヘルスチェックでは排除疾病のオーエスキー病、萎縮性鼻炎、豚マイコプラズマ肺炎、監視疾病のトキソプラズマなどの病原体の浸潤状況の検査、豚群の臨床観察等が発生することから、ハイコープSPF豚ピラミッドでは全農家畜衛生研究所のクリニック担当獣医師をはじめ、県経済連、関連会社等の獣医師が担当しています。

(2) 全農家畜衛生研究所の体制について

全農家畜衛生研究所では、生産者の家畜衛生に関わる業務（農場訪問、解剖採材、臨床検査、家

畜の飼養・防疫管理対策の助言など）をクリニック業務と呼び、その担当者をクリニック担当獣医師と呼んでいます。養豚だけでなく、養鶏、養牛農場も担当することがあり、全国5か所のクリニック分室で対応しています。(図1)

クリニック担当獣医師は私が担当していた2010年前後には11名で対応しておりましたが、近年、クリニック利用のニーズが高まり、若手職員を中心に現在23名のクリニック担当獣医師が配置されています。

これらクリニック担当獣医師が、全国各地のハイコープSPF豚ピラミッドCM農場のヘルスチェックを対応しています。

大多数の職員が若手となった現在、当所ではヘルスチェックに係る技術の維持・継続を目的に

表1 CM農場ヘルスチェック項目

項 目	判 定 基 準
オーエスキー病 (AD)	野外ウイルス陰性。
萎縮性鼻炎 (AR)	と畜場出荷豚に対し、上顎の第1前臼歯と第2臼歯の間を切断し、間隔を計測する。計測値をAR病変指数換算表により指数化する。
豚マイコプラズマ性肺炎 (MPS)	左右両肺におけるMPS様病変部の面積を計測する。合算値をMPS様病変指数換算表により指数化する。
豚赤痢 (SD)	臨床症状がない
トキソプラズマ病	臨床症状がない



図1 家畜衛生研究所クリニック体制図

様々な訓練を行っております。

定を中心に行います。

(3) ヘルスチェック項目の研修

①オーエスキー病検査結果判定

クリニック担当獣医師は日常、家畜の衛生検査業務に携わることから検査手法、結果の見方等に精通しております。若手職員に対しては日常の業務を通じて知識の向上をはかっています。

②と畜場でのスコアリング研修

と畜場で実施する萎縮性鼻炎に対する鼻甲介病変のスコアリング、豚マイコプラズマ性肺炎に対するスコアリングに関しては実地での研修を中心に行っています。

鼻甲介病変のスコアリングに関しては、適切な部位での切断による判定を、豚マイコプラズマ性肺炎のスコアリングに関しては、MPS 様病変部と疑われる部位の特定、病変部面積の測

(4) SPF 豚農場認定制度に関する研修

さらに今年度はヘルスチェックだけではなく、SPF 豚農場認定制度全体の理解を深めるため、クリニック獣医師を対象とした web での集合研修も実施しました。

このように、担当する若手職員が SPF 豚農場認定制度全体の理解を深めつつ CM 農場の認定作業に関われるよう、日々研鑽を積んでいます。

今後は、SPF 認定に係る 4 つの指標（農場回転数、農場飼料要求率、母豚 1 頭当たり肉豚出荷頭数、出荷豚 1 頭当たりの A 分類薬品費）の意義についての理解を深めるとともに、生産者、JA グループ関係者と一緒に生産成績の向上についての議論や提案ができるように、スキルアップに努めてまいります。